

2012. 4. 23

仙台市中学校長会総会 挨拶

会長 庄子 修

例年になくゆっくりとした春の足取りが、とてももどかしく感じられ、それだけに、満開となる桜への期待が、一層大きく膨らんでいるところです。

本日は、仙台市教育委員会、教育長代理の針生弘次長様を始め、関係各団体の方々、そして歴代校長会長の先輩方のご臨席を賜りましたことに心から感謝を申し上げます。

さて、昨年度は、あの東日本大震災から立ち上がるために、市内のすべての中学校が全力で取り組んできた1年だったかと思えます。特に、甚大な被災を受けた中学校では、様々な困難を乗り越え、復旧のために職員、生徒、保護者そして地域が一体となって力を尽くしてきました。それでもなお、未だ仮設の施設の中で学校生活を送っているところもあり、1日も早い学校施設の復旧が待たれるところです。

また、被災の程度にかかわらず、市内の全ての児童生徒が思いを共有し、街を元気にしようとして取り組んだ故郷復興プロジェクト、そして「星に願いを 8万人の児童生徒の思いを」と題して、仙台市小学校長会や仙台市PTA協議会と共に取り組んだ仙台七夕への参加などもございました。

私たち中学校長会としていたしましては、全国からのたくさんの支援に応えるとともに、大震災に対応したこの体験を風化させず、今後の学校経営に生かしてもらおうという目的で、市内すべての中学校の様子も詳しく掲載した340ページにも及ぶ記録集を作成し、発行したところです。

とは言え、「今年は復興元年」という言葉が示すとおり、創造ある復興は、まだスタートラインに立ったばかりです。私たちのこれからの取り組みを、将来のために、記録として蓄積していかなければならないと考えているところです。

また、今回の震災を経験し、多くの生徒たちがボランティア活動に参加したことも、見逃すわけにはいきません。ありがとうと言われ、社会のために役に立てた喜びを感じ、自己有用感につながったこの体験を大切に、継続させることが大切です。このことは、将来、社会に貢献できる若者の育成にもつながっていくはずです。

そのためには、生徒の意識を持続させ、高めるための活動を継続させる必要があります。教育委員会では、故郷復興プロジェクトを今年も継続することとしていますが、教育委員会から出た話というのではなく、生徒たちの心を育てるには、むしろ各中学校が積極的に様々な企画を立てるなどして、この震災体験を活用させない手はありません。この機会を逃してはならないと考えているところです。

全国からの支援も決して忘れることはできません。本校に設置された避難所に応援に入った新潟市の職員は「中越地震での全国からの支援に対する恩返し」と話していました。私たちも、見習い、全国からの支援に感謝するとともに、今後の恩返しのあり方についても、生徒たちに意識づけを図っていくことが必要かと思えます。

真の復興には10年、20年かかるとも言われております。そのときに復興の主役となる

であろう今の中学生に求められる力は何か。それは、復興に向けた社会を支えるべく「たくましく生きる力」であるに違いありません。その具体は、確かな学力であり、豊かな人間性であり、健康な体であります。今、学校教育が求めている姿は、まさしく復興を目指す被災地にこそ求められる生徒像なのです。「震災があったから」という理由で、生徒たちに「確かな学力」を身につけてやれなかったという言い訳は通用しないし、決してあってはならないことと考えます。

様々な困難はありますが、私たち校長は、リーダーシップを遺憾なく発揮し、教職員の指導力の向上に努め、地域の復興に貢献できる生徒を育成することこそが、使命であると考えます。

これまで縷々述べてまいりましたが、震災を受けての課題は、まだまだたくさんございます。校長会からも代表委員が入っている生徒指導問題等懇談会からは、先ごろ中間報告が出されました。それによりますと、阪神淡路大震災後、神戸では生徒指導問題の発件数が大幅に増えたとの話もございます。教職員がこれまで以上に生徒に関わってあげること、さらには、「自分の命を自分で守る」べく「新しい防災教育」の推進。放射能の正しい理解と対応。経験から学んだ避難所運営のあり方。校外活動時の危機管理の再検討など、まさに校長の手腕が試される課題が山積しております。

今こそ、仙台市中学校長会の英知を結集し、市教委や先輩方からの助言をいただきながら、校長会の心をひとつにし、一丸となって課題の解決に取り組んでいかなければならいと考えます。

震災関係以外にも、今年は中学校の新しい教育課程が全面実施されます。時数の確保や、例えば柔道指導の安全確保、総合的な学習の時間の精選などが課題となるでしょうし、高校の入試制度も公立、私立ともに大きく変わります。保護者への周知徹底に努めるとともに、評定の説明責任もこれまで以上に求められることとなります。ミスは決して許されません。こうした課題にも、校長が自ら研鑽を積み、指導力を発揮して、課題の解決に取り組む覚悟が必要です。

先ごろ策定された「仙台市教育振興基本計画」の中に、「人が町をつくり、町が人を育む 学びの町 仙台」というキーワードがあります。その根底には、人と人との関わり合い、絆が大切です。市教委の学校教育部には新たに「学びの連携推進室」が設置されましたが、小学校との連携、地域との連携、さらには仙台市小学校長会や宮城県中学校長会との連携を進めながら、私たち校長としての責務を全うしていくべきと考えます。

教職員が、生徒が、保護者が安心して、ついてこれるような、そして一層の信頼を得られるような校長となるべく、この総会にあたり、私自身も、襟を正し心を新たにして、この1年間、全力を尽くして取り組みたいと考えております。

最後になりますが、本日までご臨席を賜りました市教委、関係各団体、そして歴代校長会長様には、これまで以上に、私ども仙台市中学校長会にお力添えをいただきますようお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。